2　取組項目ごとの説明（地域住民等ができること）

本編に記載したように、取組みを進めるにあたっては、地域住民等、市社協、市が連携し、それぞれの役割を果たしていく必要があります。地域のみなさんが自分に無理なくできる1歩から踏み出していただけるように、ヒアリングやワークショップでの意見を参考に、取組みの例をまとめていますので参考にしてください。

（1）ともに生きるこころを育む取組みの推進

〇ヒアリングでの意見
・こども食堂に高校生が参加。小学生にとっては大人より近い関係性でコミュニケーションが取れ、高校生にとっては、こどもに関わる仕事を考えるきっかけに。
・多文化共生に取組む効果は長期で出る。外国人児童も日本社会で活躍する時代が来る。

〇ワークショップでの意見
・学校の授業にゲストティーチャーとして、地域の人を招待している。
・人にやさしい地域にしたい。
・困っている人に声をかけられる地域にしたい。
・転入者（特に子育て世代）が受け入れられるまちにしたい。
・一人暮らしでも楽しく生き生きと過ごせて、孤独死がない地域がいい。
・認知症・介護予防のための学習会・体験会の開催をしている。
・高齢者とこども達がもっと密に関われるまちにしたい。
・使わなくなったものを必要なところへ寄付はできそう。
・地域全体での子育て、こどもの声が聞こえる地域に。
・外国人の方へごみ出しの仕方を教えている。
・近所付き合いで買い物支援をしている。
・ごみ出し時に高齢の方などへ声かけやお手伝いならできそう。
・昔からの伝統や文化を大人や高齢者からこどもに伝えたい。
・地域探索学習（中学校）を通じて、地域の良さや強みを学んでいる。
・ごみのポイ捨てをしないようにしたい。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・年齢や性別、障害の有無や国籍、生育環境や経験に関わりなく、様々な人と交流し、思いや体験の共有に努めます。
・地域福祉や地域生活課題への理解と関心を高めます。
・「誰かの役に立ちたい」「安心して暮らせる地域をつくりたい」という思いを実行に移します。
・一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、「ともに生きる力」を育みます。
・ボランティアや地域福祉の活動者の仲間をつくります。

地域を支える組織・団体として

・多様な人や団体と連携しながら、既存の活動や行事などを活用し、福祉教育の推進に努めます。
・地域生活課題に関心を持ちます。
・体験や交流、ボランティア活動などを通じた学びの場を提供します。
・福祉への理解と関心を広げ、参加を促進するための広報・啓発活動を行います。

(2)権利を守る取組みの推進

〇ヒアリングでの意見
・これがやりたいと思ったときに、サポートしてくれる人の顔色を伺ってしまう。
・就職の際、やりたいことがあったが、ハード面のバリア(スロープ、トイレ等)のため断念した。
・わかり合えないのは違う人間だからというだけなのに、日本人と同じことをしても、外国人だと許せないという人がいる。
・要介護になっても、認知症になっても、自分の家で暮らしていけるといい。

〇ワークショップでの意見
・差別がない地域にしたい。
・誰もがイキイキと過ごせる地域をつくりたい。
・認知症になっても、ならなくても安心できる地域にしたい。
・年をとっても安心して生活できる地域がいい。
・一人ひとりを尊重し合えるまちにしたい。
・孤立する人が減ってほしい。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・相手の立場になって考えます。
・虐待やDVを受けている可能性のある人を発見したときは、速やかに関係機関に通報します。
・成年後見制度について理解を深めます。
・差別防止や虐待防止等について正しく理解できるようにします。
・すべての住民が、その人らしい生活を送ることができるようにできることで関わります。
・すべての人を、かけがえのない存在として尊重します。
・多様性を受け止め、当たり前にする意識を広げます。
・認知症や障害に起因する症状に関する理解を深めます。

地域を支える組織・団体として

・住民の誰もが活動に参加できるように工夫します。
・地域で人権について学ぶ学習会を開催します。
・ハード面のバリアについてできる限り解消します。
・誰も排除されない包摂的な地域をめざします。

(3)福祉のまちづくりへの参画促進

〇ヒアリングでの意見
・ボランティアやイベントなどは、依頼や案内があれば積極的に参加したい。
・社会の色々な課題を解決するためには、行政の力だけではなく、地元企業の協力が必要。
・自治会をフランクな声かけができる場にしたい。
・活動を継続するためにも、お金と場所は必要。

〇ワークショップでの意見
・得意なことを活かしあった助け合いをやる。
・若い世代に地域行事を計画してもらい、「役員は大変ではない」と伝えたい。
・住民1人ひとりが校区内で役割を持って過ごしてもらいたい。
・身近な人に社会貢献の良さをアピールしたい。
・気軽にボランティアできるまちにしたい。
・学校と地域で取組む活動を増やしたい。
・コミュニティセンターに来たことがない人に来てもらうためのイベントを開催している。
・こどもたちが認知症予防カフェに参加している。
・学校ボランティアを地域の方に担ってもらっている。
・回覧板に入っている行事案内を一目でわかるように要約している。
・企業に居場所提供の相談をしてみたい。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・どのような地域活動等が行われているか興味を持ちます。
・地域活動に自分の得意なことで参加します。
・共同募金や、興味のある事業のクラウドファンディングに協力します。
・こどもたちへ地域や自治会の大切さを伝えます。

地域を支える組織・団体として

・地域行事を企画する際は、初めての人でも参加しやすい工夫をします。
・住民のニーズや地域の社会資源、福祉活動等の把握、理解に努めます。
・制度の枠内にとどまらない福祉活動・事業を企画し、実施します。
・共同募金の役割や助成の効果、重要性について積極的に周知します。
・共同募金運動および歳末助け合い運動を進めます。
・つながる機会を提供し、住民や地域の関係者で学び合います。
・地域活動へのハードルが低くなるように工夫します。
・協働による取組みを促進するなど、活動の組織化を図ります。
・地域福祉に関する興味関心や機運を高めます。

(4)見守り活動・交流の場や居場所づくりの推進

〇ヒアリングでの意見
・こどもの縦(異年齢)のつながりが少ない。
・移動販売によって、買いに来る人の見守りが自然にできている。

〇ワークショップでの意見
・縁側みたいな、少人数で気軽に集まれる場所がたくさんあるといい。
・明るくあいさつし、声をかける際は名前を呼ぶようにしている。
・通学しているこどもたちへ大人があいさつや声かけができる地域にしたい。
・近所の人たちと、気軽にあいさつができるとよい。
・行事だけではなく、交流がある地域であってほしい。
・地域のつながりや隣近所の顔が見える関係性があるまちにしたい。
・こどもと大人のコミュニケーションが取れているまちにしたい。
・安心して遊べる、遊ぶ場所がたくさんあるまちにしたい。
・こどもたちにコミュニティセンターを開放して、放課後に遊びに来てもらっている。
・公園でこどもたちと一緒に遊びつつ見守りもしている。
・介護施設以外で、歩ける範囲に通える場があるといい。
・学童保育所に行けなくなった高学年の子たちが過ごせる場所がある。
・病院内に地域の人たちが集う場所がつくれたらいい。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・隣近所の関係を大切にし、あいさつや声かけを行います。
・趣味の合う人同士で集まって活動します。
・市外からの転居者や外国人住民などの新しい住民とも関係をつくります。
・地域のお祭りやイベントに周囲の人を誘って参加します。
・できる範囲で居場所や活動拠点の運営などに参加・協力します。

地域を支える組織・団体として

・地域行事を企画する際は、初めての人でも参加しやすい工夫をします。
・多世代が集まって楽しむことができる催しを企画します。
・住民や地域の関係者との多様なネットワークを活かします。
・誰もが集える場の周知に努めます。

(5)災害時支援に備えた取組みの推進

〇ヒアリングでの意見
・こども達が屋外活動を経験する機会がない。火を起こすなどの経験は、災害時の備えにもなる。
・車椅子だと避難生活で広いスペースが必要だが、確保できるかは不安。他の避難者への後ろめたさもある。
・施設だけでなく、校区住民と一緒に防災訓練を行なっている。

〇ワークショップでの意見
・日ごろから関わりを持ち、災害時の助け合いにつなげたい。
・災害のときに、高齢者の方々の安全確保ができるまちにしたい。
・安全に避難できる地域にしたい。
・避難場所、危険個所、行動手順が記載された災害マップを作成してみたい。
・図上訓練などを行なって、危険な場所を把握するようにしたい。
・防火、防災に関する講演会やイベントを開催してみたい。
・大雨、台風接近時に避難や注意の呼びかけをしている。
・避難所の運営ボランティアはできるかもしれない。
・通学路を一緒に歩いて、危険な場所を考えたりできそう。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・普段から防災グッズを準備します。
・避難経路や避難場所、ハザードマップなどを確認します。
・避難訓練に参加します。
・災害ボランティアに参加します。
・災害時に支援が必要と思われる人を、平時から気にかけます。

地域を支える組織・団体として

・図上訓練を実施します。
・住民や地域の関係者とのネットワークを活かし、平時から福祉と防災の連携を図ります。
・平時から防災・減災に取り組み、関心を深める広報・啓発活動を行います。
・「災害時マイプラン」の策定に協力します。

(6)包括的な相談支援の推進

○ヒアリングでの意見
・複合的な課題を抱える家庭が増え、1団体だけでは対応が難しい。
・こどもから大人まで誰に相談すればいいかわかっている状態をつくりたい。
・相談窓口の職員には、担当外の相談でも一度は受け止めてほしい。
・当事者は自分をヤングケアラーだと思っておらず、親を守りたいだけ。きつい子ほど声をあげない。

○ワークショップでの意見
・地域で相談会を開催したい。
・高齢者の困りごと相談、見守り活動、サロン活動などをしている。
・こどもが親や先生以外に話せる大人が身近にいる。
・介護や医療と地域が連携している。
・住んでいる人の困りごとが見えやすいまちにしたい。
・気兼ねなくSOSが発信できる地域の雰囲気があるまちにしたい。
・困ったときに助けを求められるお付き合いがあるまちがいい。
・困っていそうな人には優しく声かけできる地域がいい。
・困ったときに相談できる人や場所があるといい。
・多世代へ地域包括支援センター(相談機関)の周知を行いたい。
・各団体の話し合いの場を多くつくることが大事。

【例えばこんなこと】

住民のひとりとして

・周囲の人が抱える課題に対し、「自分だったらどうするだろう」と考えてみます。
・困ったことがあれば、すぐに周囲に相談します。
・自分の地区の民生委員・児童委員を知り、活動に関心を持ちます。
・犯罪をした人等の背景にも思いを寄せます。
・困っている人の話を聞き、自分の知る相談窓口を紹介します。

地域を支える組織・団体として

・住民等からの様々な相談を受け止めます。
・地域生活課題を発見・把握し、必要な支援につなげます。
・当事者と地域の関係者が対話や協議をする場をつくります。
・住民のニーズに基づき、地域を良くする活動を推進します。
・対話や実践を通じて、市民活動団体や福祉サービスを支える福祉専門職と対話や実践を通じて理解し合い、協働していきます。